

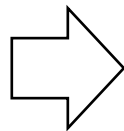
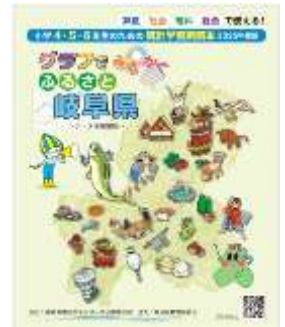
統計学習副読本活用の手引き

岐阜県環境エネルギー生活部統計課

統計学習副読本は、高学年の児童に必要な統計プロセスの実践的学習ができることに加え、岐阜県に関する様々な統計データを用いて、県の魅力や特徴を楽しく学ぶことができる内容となっています。

県内の全ての4年生に1部ずつ提供しますので、6年生までの3年間にわたり大切に扱うようご指導いただくとともに、算数・社会などの教科のみならず、「総合的な学習の時間」などの授業にも幅広くご活用くださいますようお願いいたします。

また、本手引きでは、副読本を活用した授業例を紹介していますので、先生方のご指導の参考としていただければ幸いに存じます。



**社会科
総合的な学習の時間** がオススメ

社会科第3・4学年で学習する「わたしたちの県」の内容を参考に構成しています。

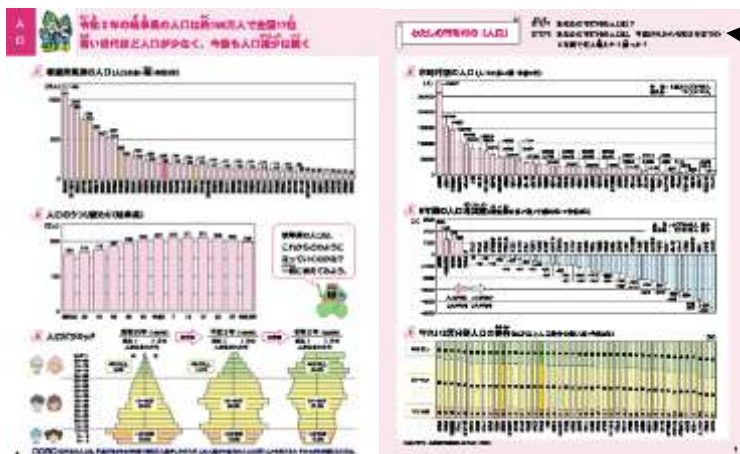
9つのテーマについて、見開き2ページに見やすく統計資料を配置しています。それぞれの内容は、独立していますので、どこからでも興味のあるところから、読み進めていくことができます。

本章では、以下の9つのテーマを取り扱っています。

「人口」 「人口の動き」 「世帯とくらし」 「安全・安心」
「自然と気候」 「農林水産」 「工業」 「観光」 「選挙と政治」

左上に、テーマとその概要が記載されています。

概要は、統計資料からどのような読み取りができるかの参考になります。



テーマに関連して、地域や市町村といった県以外の統計資料がある場合には、右上に、追求していくための視点が書かれています。

児童が、本冊子を用いて自学・自習をする際には、この視点をもとに調べる方法があることをアドバイスしていくことが考えられます。

見開き左ページの下には、テーマにかかわる「豆ちしき」が記載されています。

見開き右ページの下には、出典やデータを見る上での注意事項が記載されています。



算数科第4・5学年で学習する「数量関係」の内容を参考に、構成しています。

取り上げたグラフは、「棒グラフ」「折れ線グラフ」「帯グラフ」「円グラフ」の4つです。統計資料の内容は、児童が住んでいる地域のデータをグラフにすることを想定しています。第1章にある岐阜県のデータと比べていくことで、市町村の特色の理解がより深まると考えます。

本章の作業は、すべて、3つのステップで行うようにしています。

①データの入手 → ②データの加工 → ③グラフの作成

上部に、使用するグラフの種類とテーマが書かれています。

岐阜県の特徴をふまえ、市町村にはどんな特徴があるかを考えさせてから、グラフを作成していく方法が考えられます。

(例：「岐阜県は、近年人口が減っています。〇〇市では、どう変化していると思いますか。」)

STEP 1 人口のうつつり変わりを表にしよう
この表の37ページを見て、あなたの住んでいる市町村の人口のうつつり変わりを表にしよう。

年	人口	上から2けたのさいごの数
平成12年 (2000年)	人	人
平成17年 (2005年)	人	人
平成22年 (2010年)	人	人
平成27年 (2015年)	人	人
令和2年 (2020年)	人	人

STEP 2 棒グラフで表そう
(人) 【 】の人口のうつつり変わり

棒グラフのテンプレートが示されています。

①データの入手について

データは全て、本冊子の第4章「わたしの市町村の統計データ一覧表」にあります。

②データの加工について

演習1・2では、棒グラフ・折れ線グラフを作成するために、元データを概数にしていきます。演習3・4では、帯グラフ・円グラフを作成するために、元データから、割合を求めていきます。

③グラフの作成について

棒グラフ・折れ線グラフについては、市町村のデータに応じて、めもりを適切に設定することが必要となります。最大のデータをもとに、適切なめもりがとれるような助言をお願いします。

本冊子では、1ページで内容を完結させるように作成しています。児童の実態や授業時間に応じて、グラフを作成する場所を増やしたり減らしたりすることが考えられます。

(例：出生数はグラフをかいておき、死亡数だけをグラフにかかせるようにする)

(例：出生数・死亡数の1年ごとのデータを与えて、1年ごとのグラフをかかせるようにする)

また、このグラフを作成したあとに、グラフをみて、わかったことを考えさせることで、学習が深まると考えます。



算数科 総合的な学習の時間 がおススメ

第3章は、「統計的な探究プロセス（PPDAC サイクル）」の5つの段階の流れを大切にして、生活の中で見つけた課題を解決していく流れを解説しています。

統計的なプロセス（PPDAC サイクル）

Problem - Plan - Data - Analysis - Conclusion



「問題（Problem）」（問題の把握、問題設定）

元々の問題意識や解決すべきことがらに対して、統計的に解決可能な問題を設定する。

「計画（Plan）」（データの想定、収集計画）

設定した問題に対して必要なデータの収集方法を計画する。



「データ（Data）」（データ収集、表への整理）

考えた計画に従って実際にデータを収集し、表などに整理する。

「分析（Analysis）」（グラフの作成、特徴や傾向の把握）

集めたデータに対して、目的やデータの種類に応じてグラフにまとめたり、統計量を求めるなどして特徴や傾向を把握する。

「結論（Conclusion）」（結論付け、振り返り）

見いだした特徴や傾向から問題に対する結論をまとめて表現したりさらなる課題や活動全体の改善点を見いだしたりする。

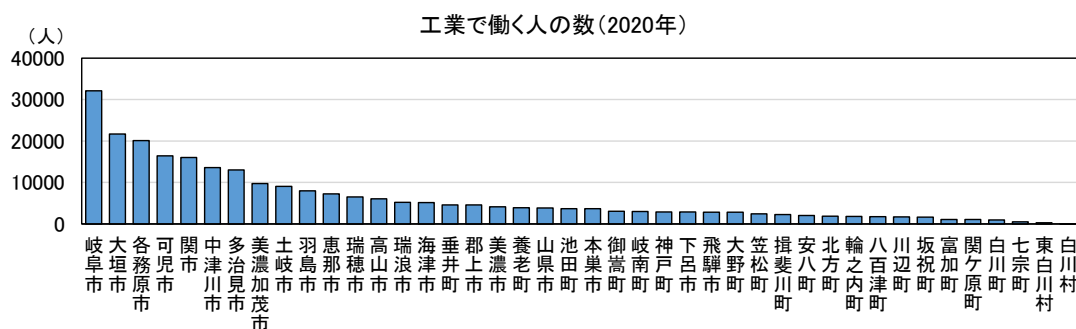




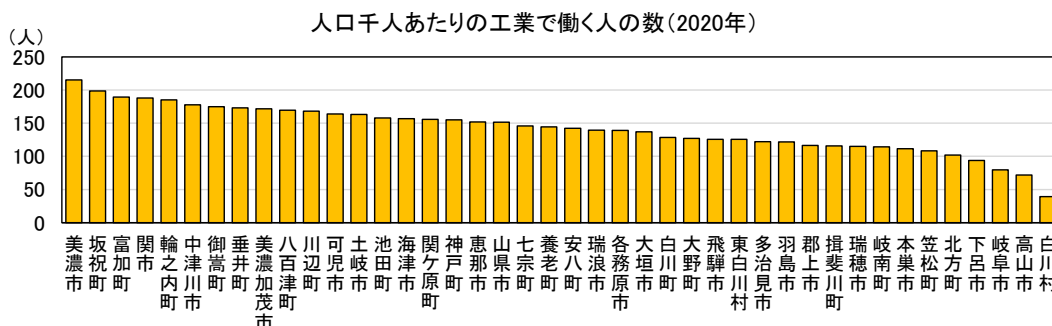
第4章は、社会科第3・4学年で学習する地域の学習を参考に構成しました。取り上げた内容は、「人口」「自然と気候」「農業」「工業」「安全・安心」「選挙と政治」等の市町村別データです。本章は、第2章「わたしのまちのグラフ工房」の元データにもなっています。また、このデータを使って、次のような学習も考えられます。

①市町村のいろいろランキング作り

工業で働く人の数についてランキングを作ると以下ようになります。

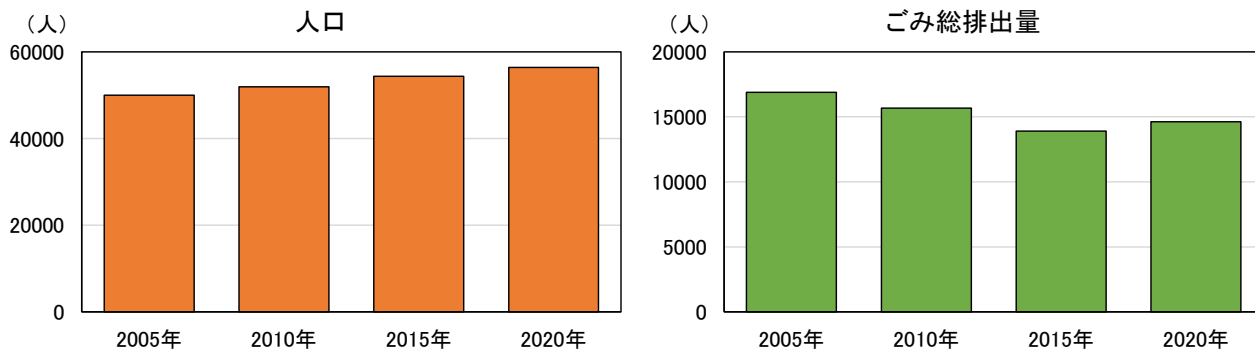


このような市町村のランキングをいくつか作っていくと、人口が多い市町村が上位にくる傾向にあることに気づく児童が出てくることが予想されます。この場合、算数科第5学年で習う「単位量あたりの大きさ」の学習内容を伝えていくことで、統計の見方が広がります。実際、工業で働いている人の数を「人口千人あたり」のランキングでグラフをつくり直すと以下ようになります。



②2つのデータをグラフにした分析

人口などは、複数年間のデータが掲載されています。それらの2つのデータをグラフにすることで、より深い学習が可能になると考えます。例えば、瑞穂市の「人口」と「ごみ総排出量」のデータをもとにして、グラフを作ると、以下ようになります。



瑞穂市の人口は、全体的に増えている一方で、ごみの総排出量は増えていません。この資料を提示することで、ごみについて考えていくきっかけができるのではないかと考えます。